

アイソスの
回文かるた

せんやりおとき
おとき
りゃん

せ

せ

first message from ISOS



*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。

せ

千夜 理を説き 通りゃんせ

ISO推進事務局に任命された青井君は、認証取得準備のために毎日残業続き。夜遅く帰宅すると、妻子はすでに床についていますが、おばあちゃんはいつもどおり息子の帰りを起きて待っています。

「おかえり。この頃、遅いわねえ。残業？」

「何回も同じことを言わさないでくれる？ 今、会社でイソに取り組んでね、俺がその担当で忙しいの」

「なあに、イソって」

「またですか。いいですか、会社がこの方向で行こうという方針を立てて、その方針に沿った目標を立てて、それを実行して、悪いところは見直して、さらにもっと上を目指そうという仕組みなの」

「あなたの会社、今まで方針なかったの」

「いや、あったよ」

「じゃあ、目標がなかったの」

「いや、もちろん目標もあったよ」

「実行してなかったわけ！」

「実行しないと、会社がつぶれるじゃない」

「だったら、どうしてイソやってるの」

「それは、俺もよくわからん。だけど、取引先が取れと言うんだから、仕方がないでしょ」

数カ月が過ぎ、ようやく青井君の会社も本審査を終えました。クロージングミーティングで、ほぼOKが出たので、青井君は同僚たちと居酒屋で「通った！通った！」と叫びながら祝杯を上げ、夜遅く帰宅しました。いつものようにおばあちゃんが起きて待っていました。

「遅いわね、残業？」

「いつものようにイソで遅くなったの」

「なあに、イソって」

「方針立てて、目標立てて、実行して、見直して、さらに向上するための仕組み」

「あなたの会社、今まで方針なかったの」

「ありました。方針も、目標もあったし、実行も見直しもしました。さらに向上することも目指してました」

「だったら、どうしてイソやってるの」

「あのね、おばあちゃん。もうこの話は千回目ですよ。これで最後にしてください。どうして会社がイソやってるか、本当のところは俺もよくわからない。だけど、取引先が取れと言うのなら、仕方がないでしょ。ほんとに、何回も何回も同じこと聞いて。ボケてるんじゃない？」

「ボケてるのは、あなたでしょ」